

奥羽大学報



初夏の中央棟

目次

平成 28 年度大学機関別認証評価で適合認定を受けました／	
奥羽大学の理念・目的	2
ようこそ奥羽大学へ 平成 29 年度入学式	3
歯学部新入生オリエンテーション／新入生オリエンテーションキャンプ／	
薬学部フレッシュマンウィーク／薬学部キャリア支援講座開催	4
歯学部父兄会・保護者懇談会／薬学部父兄会・保護者懇談会／	
薬学部特別実習中間発表会	5
薬学部早期体験学習／薬剤師国家試験ガイダンス／交通安全講習会／	
献体者合同慰霊式／動物実験研究施設利用者講習会／実験動物供養	6
大学院歯学研究科入学式／大学院歯学研究科オリエンテーション／	
ふくしま医療機器開発支援センター見学会／	
大学院特別研修セミナー・附属病院臨床教育セミナーの開催	7
FD・SD 研修会の開催／福島県医療機関図書協議会定例会／	
平成 29 年度進学相談会今後の日程	8
附属病院	9
歯学部研究紹介	10
薬学部研究紹介	11
一目で歯周炎診断／第 63 回歯学会の開催	12
第 95 回国際歯科研究学会 (IADR) に参加して／平成 29 年度科学研究費助成事業	13
学校法人晴川学園 平成 28 年度決算報告	14
スポット学友会	15
無垢サロン／自著を語る	16
新任教授紹介／同窓会だより	17
同窓生のひろば	18
人事	19
平成 29 (2017) 年度 夏のオープンキャンパス実施日程	20

平成28年度大学機関別認証評価で適合認定を受けました

本学は、公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、平成29(2017)年3月7日付で「奥羽大学は日本高等教育評価機構が定める基準に適合している」との認定を受けました。大学機関別認証評価は、文部科学省が認可した認証評価機関により7年ごとに受審することが学校教育法で平成16(2004)年から義務付けられています。大学設置基準や学校教育法などの法令を遵守して教育研究、財務、運営などが適切に行われているかが認証評価機関の基準に照らし合わせて評価されます。本学は、平成22(2010)年4月に公益財団法人大学基準協会より適合認定を受けており、今回は2度目の適合認定です。

評価結果の詳細は奥羽大学ホームページからご覧になれます。

<http://www.ohu-u.ac.jp/information/tenken.html>

- ・平成28年度 大学機関別認証評価 評価報告書
- ・平成28年度 大学機関別認証評価 自己点検評価書



認定証



適合認定マーク

奥羽大学の理念・目的

理 念

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する

目 的

奥羽大学は、教育基本法（昭和22年法律第25号）並びに学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、広く知識を養うと共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を育成し、国民の福祉と文化の発展に寄与することとし各学部のその目的は、次の各号のとおりとする。

1. 歯学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成する
2. 薬学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成する

ようこそ奥羽大学へ 平成29年度入学式

平成29年度入学式が4月4日(火)午前10時より記念講堂にて行われた。式は国歌斉唱に始まり、清浦大学院研究科長の学事報告と続き、新入生153名(歯学部49名、薬学部104名)及び編入生27名(歯学部22名、薬学部5名)の全員が呼名され、入学が許可された。清野和夫学長より新入生への期待に満ちた告辞があり、これに対して入学生を代表し、歯学部富田晴人さん、薬学部有松佑華さんが、「建学の精神を尊び、学則を守り社会に役立つ人間を目指し、学業に専念する」と誓った。また、両学部長より歯学部24名、薬学部22名の特待生に対して証の授与があった。最後に教授紹介が行われ、厳粛な雰囲気の中に式は終了した。



告 辞

学長 清 野 和 夫

新入生のみなさん、ご入学まことにおめでとうございます。ご両親様はじめご家族の皆様には、今日の日を大きな喜びをもってお迎えになられたことと、心よりお祝いを申し上げます。

本日、ここに、学校法人晴川学舎理事の皆様をはじめ、ご来賓の方々、新入生のご両親様、ご家族様のご臨席を賜り、奥羽大学入学式を挙行できますことは、本学の最も大きな喜びとするところで

ございます。新入生の皆さんは、将来、歯科医師、薬剤師になるという希望に胸を膨らませていることと思います。奥羽大学の在学生及び教職員一同、皆さんを心より歓迎いたします。

新入生の皆さんが本日の入学式を迎えることができたのは、厳しい受験勉強を克服された努力の結果であると同時に、どのようなときにも温かく見守って下さいましたご両親様、ご家族様をはじめ、多くの方々のお力添えのお陰だということを深く胸に刻み、感謝の気持ちを持ち続けながら、これからの勉学に励んでいただきたいと思います。

奥羽大学の建学の理念は「人間性豊かな人材の育成」であります。歯科医師、薬剤師は医療人として、病に苦しみ、心身ともに弱り、悩んでいる患者さんと向き合うために、他人を思いやる心、すなわち患者さんの気持ちがわかる豊かな人間性を持たなければなりません。また、社会性に優れ、良好な人間関係を築き上げ、他人から信頼されることが求められます。いわば、歯科医師、薬剤師である前に、人間としての「まことの精神」を持たなければなりません。新入生の皆さんは、本学で学ぶ六年の間に、同級生、先輩、後輩そして教職員との交流を通して、「豊かな人間性」と「まことの精神」を養っていただきたいと思います。

その一方で、日進月歩する歯科医学と薬学の道に踏み出そうとしている皆さんには、日々の授業内容をよく理解し、忘れないように、学習していただきたいと思っています。これまでの高等学校における勉強は、教えてもらうことが中心でしたが、大学では自分で学び修めることが基本になります。大学は、学問の進歩の中でたくわえた知識や技術を伝え授け、歯科医学、薬学の基礎となる部分を教えます。学生に求められるのは、その上にいかに自ら能動的に学ぶかであります。単に教えられた知識を覚えるだけではなく、それをもとにさらに深く自らが学習し、自らが探求し、自らが考える力を養うことです。新入生の皆さんには、大学で学ぶということの意味をよく理解していただき、豊かな人間性ととともに、知識と技能にすぐれた歯科医師、薬剤師になっていただきたいと願っています。

わが国は、世界に例をみないスピードで高齢化が進んでいます。国民の健康に対する意識が高まり、健康長寿であることを願う一方で、介護を必要とする高齢者が増加するといった社会現象が生まれています。健康であるときはもとより、介護を受けるようになってからも、人は口から食べる喜びを

求めるものです。食物を飲み込みやすいようによく噛みくだく、それを手助けするのが歯科医師の仕事です。薬剤師は、医薬品についての幅広い知識を持つ薬の専門家です。薬を調剤し、患者さんに薬の飲み方を説明するほか、入院している患者さんに寄り添い薬の相談にのるところに薬剤師としての仕事があります。日本の科学が進歩し、いかに高性能の人工知能やロボットが開発されたとしても、歯科医師や薬剤師の仕事はこれらに代替えできるものではありません。新入生の皆さんには、超高齢社会における貢献度が益々高まっている歯科医師、薬剤師になりたいという希望をかなえ、地域社会に貢献できる人材になるよう、本学の学則を遵守しながら、日々、学業に精励邁進していただきたいと願っています。

皆さんは今日から、ここ郡山の地で新しい生活が始まります。喜び、希望と共に、いくばくかの不安を抱えていることと思いますが、安心してください。これから奥羽大学のキャンパスでたくさんの友人、先輩、そして先生に出会うことになります。生涯を共に歩いていく仲間も得ることができるでしょう。そのような一つひとつの出会いを大切に学生生活を送れば、不安は消え、卒業時には多くの知識とすばらしい経験をたくわえ、豊かな人間性を備えた医療人に成長していることと思います。人生のなかで最も多感な青春時代を、ここ郡山の地で、奥羽大学のキャンパスで謳歌してください。

奥羽大学は、先進の設備、機器を備えた教育環境を整え、教授陣が一丸となって皆さんの希望がかなえられるよう支援することをお誓い申し上げ、告辞といたします。

歯学部新入生オリエンテーション

4月4日(火)入学式終了後、午後1時から第3講義棟332教室で新入生並びに保護者に対し、菊地尚志学年主任からクラス担任が紹介され、学生相談においては車田文雄カウンセラーから説明があった。

引き続き、授業概要並びに学生生活について瀬川洋学生部長から詳細な説明がなされ、保護者からの質疑応答もあり、入学の第一歩を踏み出した。

新入生オリエンテーションキャンプ

4月6日(木)、7日(金)に1泊2日の歯学部及び薬学部新入生合同でオリエンテーションキャンプを開催した。研修は、医の博物館(新潟市)を見学し、未来の歯科医師、薬剤師を目指す者としての志を再確認した。そのほか、北塩原村にある裏磐梯レイクリゾートにて学部間の垣根を越えた新入生合同のクイズ大会などの催しを行い、楽しいひと時を過ごした。

新入生たちは宿泊を伴う研修により親睦を深めて希望を胸に新たな学生生活をスタートした。



薬学部フレッシュマンウィーク

薬学部では、入学式翌日からの集中授業としてフレッシュマンウィークを実施している。本年度は4月5日(木)から8日(日)までの予定であったが、インフルエンザ感染拡大の懸念が生じたため、後半2日間の日程は5月に延期して実施された。

新入生は学生生活に必要な知識を得るとともに、学外でのオリエンテーションキャンプやグループワークを通じ、チームによる課題解決の意義と、その中で自分の役割を積極的に担おうとする態度の大切さを学んだ。

薬学部キャリア支援講座開催

これから実務実習に取り組む5年生の不安を少しでも取り除き実習に専念できるよう、4月28日(金)キャリアガイダンスを実施した。当日は(株)ジェイブロードより講師を招き、「薬学生の就職活動」と題した講演の中で、今年度の就職日程、業界による採用活動時期の違い、薬学生の就職市場の現況等細かい点まで説明があった。講演の中で「実務実習に真摯に向き合えば必ずと方向性が解ってくる」との言葉に、就職活動に対する漠然とした不安は解消されたようであった。

歯学部父兄会・保護者懇談会

5月13日(土)、歯学部の保護者懇談会が在学生の40%を超える保護者の参加を得て開催された。保護者からは普段の生活の様子や進級基準、国家試験の傾向やCBT・OSCEに関することなど学業全般に関係する質問が出され、クラス担任が現況を説明し、学習のアドバイスをを行うなど丁寧に回答した。

また、平成29年度歯学部父兄会第1回幹事会ならびに第2回総会が第3講義棟にて開催された。西村郁夫父兄会長を議長として下記の議案を審議し、承認した。

報告事項

- (1) 平成28年度事業報告

審議事項

- (1) 平成29年度の役員選出について
- (2) 平成28年度収支決算(案)について



薬学部父兄会・保護者懇談会

5月26日(金)、平成29年度父兄会第1回幹事会及び第2回定期総会が開催された。総会の出席者は85名を数え、幹事会には、宮城県塩釜市や茨城県大子町などからもお越しいただいた。このような中、衛藤雅昭薬学部長より、「奥羽大生は非常に性格が良く、もう少しやる気を出せば国試合格率アップも期待できる。教員46名、一丸となって学生の皆さんに寄り添っていく」と熱いメッセージが届けられた。それに対して、ご父兄からも厳しく指導してほしいとの要望が出され、お互い力を合わせて学生を応援していくことを再確認できた。

さらに当日は、学年懇談会(1年から6年までの各学年主任が説明、面談)、国試受験関連の研修講習会、授業参観なども行われ、様々なシーンでご父兄の方々との意見が交換された。



薬学部特別実習中間発表会

6月16日(金)、17日(土)の2日間にわたり、平成29年度特別実習中間発表会が第2講義棟第1教室で開催された。薬学部6年生79名が指導教員の下で4年生から取り組んできた研究成果を口頭で発表した。今年度は、1会場での発表となり、基礎から臨床までの幅広い領域における最先端の知識を皆で共有し、学生、教員を交えて活発な討論が行われた。会場では4、5年生の積極的な参加も見られ熱気のある会となった。



薬学部早期体験学習

6月12日(月)及び19日(月)の2日間にわたり、薬学部1年生の早期体験学習が実施された。この学習では、学生が病院及び保険薬局を訪問し様々な薬剤師業務の実際を見聞する。目的は、その体験から薬剤師業務の重要性を認識し、将来どのような薬剤師になりたいかを考え、ひいては、これからの勉学へのモチベーションを向上させることにある。本年度は郡山市内の6病院、22保険薬局の協力をいただいた。



薬剤師国家試験ガイダンス

4月6日(木)、阿部公平講師(医薬アカデミー)をお招きし、「第103回薬剤師国家試験合格を目指して」と題して、薬学部5・6年生を対象とした薬剤師国家試験ガイダンスを実施した。最初に第102回薬剤師国家試験の総評が行われ、次に国家試験合格に近づくためのおさえるべきポイント、自己分析の重要性や年間を通しての勉強方法が紹介された。学生は真剣に聴き入り、受験に向けて覚悟を固めたようだった。

なお、当日は2・3年生を対象としてもガイダンスが行われ、将来の薬剤師国家試験合格に向けた取り組み方の説明を受けた。

交通安全講習会

6月27日(火)午後4時45分より、記念講堂において、交通安全講習会が開催された。瀬川洋歯学部学生部長の挨拶に続いて、郡山北警察署から講師としてお越しいただいた原川昌一交通課課長の講演を拝聴した。今回、本学の正門前で起った自転車同士の接触事故があり、どんな時でも運転時は周囲に気を使い万全の注意を払うよう促された。また道路交通法の改定などいま必要な知識を得ることが出来た。今回は全教員、学生が対象となり、多くの大学関係者が熱心に講話を聴き、交通講習のビデオから学ぶ良い機会となった。

献体者合同慰霊式

本年度奥羽大学献体者合同慰霊式は6月4日(日)午後1時、郡山市内にある霊鷲山常居寺の慰霊碑前において執り行われた。式では平成28年度成願者のご尊名が拝誦され、霊札納塔の儀が執り行われ、清野学長、学生代表により追悼感謝の言葉が述べられた。続いて参列された方々、本学学生による献花が行われ、ご献体をされた方々ならびにご遺族に感謝し、参列者全員でご冥福を心からお祈りした。



動物実験研究施設利用者講習会

本年度1回目の動物実験研究施設利用者講習会兼教育訓練が4月20日(木)、第3講義棟で開催された。当日の講習会では、動物実験委員長清浦有祐教授による挨拶ののち、施設実務担当の吉川一良氏から施設使用についての諸注意と要望が述べられた。続いて、実験動物管理者の長岡正博講師が動物実験の倫理について講演し、最後に施設長伊東博司教授が動物実験は特別に許可された実験であることを留意して施設を利用してほしい旨を述べられた。

実験動物供養

実験動物供養が6月4日(日)、郡山市片平町の霊鷲山常居寺にて合同慰霊式に引き続き行われた。本学動物実験施設利用者と歯学部2年生が参列した。実験動物供養塔前において読経のなか焼香がなされ、そののち参列者全員で合掌、礼拝をした。

実験動物供養は毎年6月に合同慰霊式とともに行われ、それまでの1年間に各自が扱った動物に改めて感謝の意を捧げている。

大学院歯学研究科入学式

本年度の大学院入学式が4月4日(火)午後2時から、附属病院棟5階第3会議室で挙行された。始めに新生11名が呼名され、清野和夫学長から入学を許可された。その後に清野学長から大学における研究活動の意義と大学院生としての心構え、特に自ら学び研究をしていくことの重要性について告辞があった。



大学院歯学研究科オリエンテーション

本年度の大学院オリエンテーションが4月4日(火)午後2時30分から、講義棟研修室1で開催された。清浦有祐研究科長から、新たに作成したカリキュラムマップに基づいて、入学後から学位取得までの教育内容と学位論文作成に関する詳しい説明と研究不正及びハラスメントへの対応について案内があった。また、事務担当者が教務関係書類の提出や相談窓口について説明を行った。

ふくしま医療機器開発支援センター見学会

昨年11月に郡山市富田町に開設された「ふくしま医療機器開発支援センター」の本学大学院生を対象にした見学会が、5月22日(月)午後6時から実施された。当日はセンター長の滝澤眞己氏からセンターの設立趣旨とその経緯に関する講演があった後、センター内に設置された大型でハイスペックな最新の実験装置の数々を詳細な説明を受けながら見学することができた。当日は、大学院生13名と教員7名の計20名が参加した。

ふくしま医療機器開発支援センターにおける動物実験教育訓練セミナーの開催

本学大学院生を対象とした動物実験教育訓練セミナーが、5月30日(火)午後6時から「ふくしま医療機器開発支援センター」の安全性評価部長で、日本実験動物学会の動物福祉・倫理委員会委員長を務める大和田一雄氏を講師として、同センター内の研修室で開催された。今回のセミナーでは、これから動物実験を行う大学院生にとって最も大切な動物実験の倫理と動物福祉に関して、詳しい説明が行われた。当日は、大学院生8名と教員3名の計11名が参加した。

大学院特別研修セミナー・附属病院臨床教育セミナーの開催

本年度第1回大学院特別研修セミナーが附属病院臨床教育セミナーとの併催で、6月2日(金)午後5時40分から、奈良県総合医療センター総長 上田裕一名古屋大学名誉教授を講師として第3講義棟332教室で開催された。講演題目は「医療事故調査で私が学んだことー病院・医療者に期待することー」で、国内の様々な医療事故調査委員会の委員長、委員を歴任した上田先生の経験に基づく貴重な講演であった。当日は大学院生、研修歯科医及び教員の計120名が参加した。



FD・SD研修会の開催

本学における教職員の教育研究活動及び事務の向上や質的充実を図ることを目的とし、以下のとおりFD・SD研修会が開催された。開催日と講演テーマは次の通り。

■4月13日(木)、学生募集テクニカルセミナー

(学生募集に携える教職員対象)

一般社団法人日本能率協会学校経営支援センター上席研究員の野口淑氏より、本学の学生募集やそれを取り巻く入試の現状、オープンキャンパスなどにおける学生募集のポイントについて。

■4月24日(月)、大学生のメンタルヘルスについて

本学歯学部 心理学分野の鈴木敏城講師より、学校教育場面での発達障害者への対応について。

■5月25日(木)、学生の自殺防止のためのガイドライン

本学口腔衛生学講座 医療倫理学分野の車田文雄准教授より、「学生の自殺問題」において教職員がとるべき学生への対応について。

福島県医療機関図書室協議会定例会

6月14日(水)、講義棟第3講義室において第33回福島県医療機関図書室協議会定例会が開催された。本学図書館は県内医療系大学3校と29の病院図書室からなるこの会での本年度会長を務めている。総会では本年度の活動計画などについて話し合い、ランチョンセミナーでは昼食を取りながら普段の図書室業務に関する質問などの意見交換をした。研修会では歯科補綴学山森徹雄教授の講演、事例報告、研修会参加報告、業者を招いてのプロダクトレビューがあった。会終了後には本学図書館を見学した。



平成29年度進学相談会今後の日程

月日	曜日	時間	開催地	会場
7月 4日	火	15:30～18:30	郡山	郡山ビューホテルアネックス
7月 6日	木	15:30～18:00	仙台	アエル
7月14日	金	13:00～16:30	仙台	ゼビオアリーナ仙台
7月17日	月	11:00～17:00	東京	池袋サンシャインシティ
7月22日	土	10:30～17:00	東京	東京ビックサイト
9月 1日	金	15:30～18:30	秋田	アルヴェ
9月 4日	月	15:30～18:30	青森	青森国際ホテル
9月 5日	火	15:00～18:30	八戸	八戸プラザアーバンホール
9月 6日	水	14:30～18:00	宇都宮	マロニエプラザ
9月 7日	木	15:30～18:30	仙台	仙台サンプラザホール
9月12日	火	15:30～18:30	郡山	郡山ビューホテルアネックス
9月13日	水	15:30～18:30	福島	MAX ふくしま AOZ
9月15日	金	15:30～18:30	山形	山形国際ホテル
9月19日	火	15:30～18:30	盛岡	ホテルメトロポリタン盛岡本館
9月26日	火	14:30～18:00	水戸	水戸プラザホテル
10月 7日	土	10:30～17:00	仙台	夢メッセみやぎ
11月10日	金	15:00～18:30	仙台	アエル
11月14日	火	15:00～18:00	郡山	郡山ビューホテルアネックス
11月17日	金	15:00～18:00	秋田	アルヴェ

附属病院

登院式

4月3日(月)、病院5階の臨床講義室において、本年度の登院式が挙行された。43名の臨床実習生が順に呼名された後、杉田俊博病院長より訓辞があった。臨床実習は患者さんを相手にする実習であり、今までの模型実習とは異なることや、臨床の見学だけではなく、現在から歯科医師国家試験を見据えた学習が必要であることが述べられ、臨床実習生全員が真摯に受け止めていた。



歯科医師臨床研修開始式

本年度歯科医師臨床研修開始式が4月3日(月)に挙行された。単独型研修プログラムAを選択した15名、地域医療短期プログラムBを選択した12名、地域医療長期プログラムCを選択した3名の計30名が研修開始を許可された。

研修歯科医は附属病院または協力型研修施設にて、将来専門とする分野にかかわらず歯科医学及び歯科医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、基本的な診療に対応出来る歯科医師となるべく生涯研修の第一歩を踏み出した。



自衛消防訓練

自衛消防訓練が6月6日(火)、附属病院で実施された。本年度新規採用の教職員を中心に、附属病院の業務従事者約50名が参加した。4階総合歯科診療室付近から火災が発生し逃げ遅れた者がいる、という想定に基づき、5階から垂直式救助袋を利用した避難として、研修歯科医数名が積極的に脱出の訓練にあたった。また1階では消火栓を用いた訓練があり、新人歯科衛生士が放水を行い、消火に必要な技術を確認していた。



研修管理委員会

本年度第1回研修管理委員会が5月27日(土)に郡山ビューホテルで開催された。今年度研修歯科医が派遣される協力型臨床研修施設を中心に、県内外から50名を越える委員の出席があった。

杉田俊博病院長の挨拶に続き、山森徹雄研修管理委員長が議長を務め、報告と審議が行われた。

研修会では、指導歯科医の資質向上のため、電子版研修履歴手帳eログブックについて、株式会社ニッシン谷岡正行氏からの講演があった。



歯学部研究紹介 平成27年度奥羽大学若手研究奨励賞受賞者の研究成果が国際的な学術雑誌に掲載されました。

窒素非含有ビスフォスホネートは、なぜ骨髄炎・骨壊死を起こさないのか？

歯学部助手 北條健太郎（指導責任者 玉井利代子准教授）

私が平成27年度奥羽大学若手研究奨励賞を受賞し、研究奨励金を使用して行った研究が国際的な学術雑誌であるPharmacological Reportsに掲載されることが決定しました。その成果の一部を紹介いたします。

骨粗鬆症は高齢者の増加に伴って年々患者数が増加している重要な疾患の一つです。骨粗鬆症の治療薬にはビスフォスホネートという薬剤が広く用いられています。この薬剤は副作用として顎の骨に骨髄炎や骨壊死という重大な疾患を引き起こすことがあり、歯科治療が発病の契機になることもあることから、歯科における医事紛争の大きな案件にもなっています。しかし、ビスフォスホネートの一部はこのような副作用を生じさせないものもあります。同じビスフォスホネートでなぜこのような違いが起こるのかを明らかにできれば、副作用の生じないビスフォスホネートの開発や使用方法の改善を導くことができます。我々は骨髄炎や骨壊死を起こすことが少ない窒素非含有のビスフォスホネートには炎症反応を抑制する作用があることを明らかにすることができたので、報告いたします。

顎骨の骨髄炎や骨壊死は、口腔内の細菌感染によって起こります。ビスフォスホネート服用者で骨髄炎・骨壊死の発症頻度が高いということは、この薬剤が口腔細菌の感染力を増加させると考えました。細菌が感染力を高めてヒトに傷害を起こす理由の一つに、細菌感染に伴って、ヒトの体内に「炎症性サイトカイン」が産生されるということが有ります。そして、炎症性サイトカインの産生量は症状の悪化に比例しています。我々は副作用の発現の少ない窒素非含有のビスフォスホネート服用者では、このサイトカイン産生が何らかのメカニズムによって抑制されている可能性を考えました。

細菌がヒトの体内に侵入すると、白血球が細菌を除去するために侵入場所に遊走して、細菌を殺菌しようとします。その時に白血球が持つトールライクレセプターというレセプターが細菌の構造物を認識して、炎症性サイトカインを産生します。本来、この炎症性サイトカインは細菌感染からヒトを防御するホルモンのような働きをする生理活性物質ですが、過剰に産生されると傷害作用を誘導します。

この白血球の細菌感染に対する炎症性サイトカイン産生に及ぼす窒素非含有のビスフォスホネートの1つである「エチドロネート」の影響を調べたところ、サイトカイン産生を抑制する作用を持つことが分かりました。そのメカニズムを詳しく述べると以下ようになります。

白血球の表面にあるトールライクレセプターは、体内に侵入した細菌が持つ特有の構造物であるPAMPsを認識します。そうすると認識したという情報がシグナルトランスダクションというメカニズムによって白血球の遺伝子に伝達されて、炎症性サイトカイン産生が起こります。しかし、エチドロネートはシグナルトランスダクションから遺伝子の発現を起こす過程に関与するNF- κ Bというタンパクの活性化を抑制することを正解で初めて明らかにすることができました。

この結果は、口腔細菌のNF- κ Bの活性化を抑制させる機能を骨髄炎・骨壊死を起こす窒素含有ビスフォスホネートに付与することで副作用の発現を阻止できる可能性を示しています。骨粗鬆治療薬の今後の発展に寄与できる研究と考えています。



写真左から北條健太郎助手、玉井利代子准教授

薬学部研究紹介

真菌の代謝産物に関する研究および薬用植物の栽培研究

有機化学分野 講師 中楯 奨

私たちは、天然由来の物質を利用して開発された医薬品を数多く利用しています。世界中には未利用の天然資源が無数に存在し、また、生物は私たちの想像のつかないユニークな構造の化合物を作り出します。そのため、様々な科学技術が発達した今日の医薬品開発においても、天然資源を利用した研究は依然有用な手法と考えられます。現代社会では、天然資源による恩恵は資源の得られた国に分配されるべきと考えられています。日本は、国土が狭いため、天然資源が少ないように思われがちです。一方で、日本は独特な変化に富む地形や気候を有します。このため、多種多様な微生物が生息しており、真菌などの微生物は日本の豊富な天然資源と言えます。このような背景から、新しい医薬品の開発を目指して、真菌の代謝産物から活性物質や新規化合物の探索を行っています。これまでの成果の一例を挙げると、国内土壌由来の真菌 *Eupenicillium javanicum* の代謝産物から、新規抗真菌活性物質を発見しました(図1)。また、*Aspergillus udagawae* から、作用が特徴的な抗血小板凝集活性物質を発見しました。さらに、作用の強さに影響を及ぼす構造の解明(構造活性相関)や抗がん剤への応用の可能性について詳細な検討を行っています。

その他に、本学薬学部の伊藤徳家准教授との共同研究として、薬用植物の栽培研究も行っています。漢方薬は、自然から植物などの原料を得ていますが、国内での使用量が最も多い甘草を初めとして、輸入に依存するものが多いです。近年、安定供給に対する様々なリスクが顕在化しており、国産化が望まれています。そこで、照度や二酸化炭素濃度・温度等の気象条件をコントロールできる人工気象室および薬草園等を利用し、短期間で高品質な甘草を国内で栽培する方法の開発にも取り組んでいます(図2)。

このように、真菌や植物など自然の力を利用して薬を作る研究を行っています。

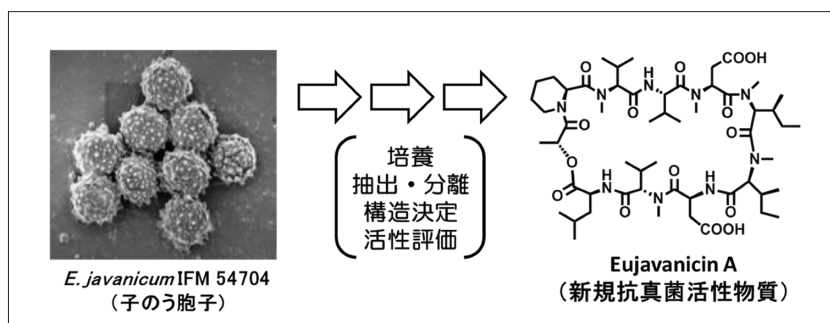


図1. 真菌の代謝産物に関する研究



図2. 薬用植物(甘草)の栽培研究

(薬学部教授 大島 光宏)



心とこの研究グループは、肉肉から出るごく微量の「液体（組織液）」のマイクロナード、肉肉炎を高精度に診断する方法を開発した。30日、欧州生化学連合の世界的な専門誌で公開した。肉肉炎を、目で診断できる世界初の技術として、将来的に臨床現場での幅広い活用が期待される。

一 目 で 歯 周 炎 診 断

大島教授（奥羽大）ら世界初技術

Q マイクロRNA さ
まざまな遺伝子の働き
を調節する微小なリボ核酸
(RNA)。細胞内のタンパ
ク質の量を調節している。塩
基対の長さは、およそ22塩基。
人間をはじめ、多くの生物種
が持っており、特定の機能を
有している。

科大園圃病学分野、慶大園圃工学研究科、日大農学部と共同で進めた。大島教授は「『生物学的根拠に基づき、園圃病を客観的に診断できるようにする』となつたのは画期的。早期発見に向けて追加研究を進めていきたい」と話した。新たな診断法は国際特許を申請している。

マインローNAをめぐるでは、全国研究者でできるシステムを構築するまで、国内外から注目が集まっている。研究は、ふしみ医療福祉機器開発事業費補助金を活用した。

	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054	2055	2056	2057	2058	2059	2060	2061	2062	2063	2064	2065	2066	2067	2068	2069	2070	2071	2072	2073	2074	2075	2076	2077	2078	2079	2080	2081	2082	2083	2084	2085	2086	2087	2088	2089	2090	2091	2092	2093	2094	2095	2096	2097	2098	2099	2100	2101	2102	2103	2104	2105	2106	2107	2108	2109	2110	2111	2112	2113	2114	2115	2116	2117	2118	2119	2120	2121	2122	2123	2124	2125	2126	2127	2128	2129	2130	2131	2132	2133	2134	2135	2136	2137	2138	2139	2140	2141	2142	2143	2144	2145	2146	2147	2148	2149	2150	2151	2152	2153	2154	2155	2156	2157	2158	2159	2160	2161	2162	2163	2164	2165	2166	2167	2168	2169	2170	2171	2172	2173	2174	2175	2176	2177	2178	2179	2180	2181	2182	2183	2184	2185	2186	2187	2188	2189	2190	2191	2192	2193	2194	2195	2196	2197	2198	2199	2200	2201	2202	2203	2204	2205	2206	2207	2208	2209	2210	2211	2212	2213	2214	2215	2216	2217	2218	2219	2220	2221	2222	2223	2224	2225	2226	2227	2228	2229	2230	2231	2232	2233	2234	2235	2236	2237	2238	2239	2240	2241	2242	2243	2244	2245	2246	2247	2248	2249	2250	2251	2252	2253	2254	2255	2256	2257	2258	2259	2260	2261	2262	2263	2264	2265	2266	2267	2268	2269	2270	2271	2272	2273	2274	2275	2276	2277	2278	2279	2280	2281	2282	2283	2284	2285	2286	2287	2288	2289	2290	2291	2292	2293	2294	2295	2296	2297	2298	2299	2300	2301	2302	2303	2304	2305	2306	2307	2308	2309	2310	2311	2312	2313	2314	2315	2316	2317	2318	2319	2320	2321	2322	2323	2324	2325	2326	2327	2328	2329	2330	2331	2332	2333	2334	2335	2336	2337	2338	2339	2340	2341	2342	2343	2344	2345	2346	2347	2348	2349	2350	2351	2352	2353	2354	2355	2356	2357	2358	2359	2360	2361	2362	2363	2364	2365	2366	2367	2368	2369	2370	2371	2372	2373	2374	2375	2376	2377	2378	2379	2380	2381	2382	2383	2384	2385	2386	2387	2388	2389	2390	2391	2392	2393	2394	2395	2396	2397	2398	2399	2400	2401	2402	2403	2404	2405	2406	2407	2408	2409	2410	2411	2412	2413	2414	2415	2416	2417	2418	2419	2420	2421	2422	2423	2424	2425	2426	2427	2428	2429	2430	2431	2432	2
--	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	---

2017年5月31日 福島民友

第95回国際歯科学研究学会 (IADR) に参加して

この度、IADR2017サンフランシスコで発表して参りました。学会会場は、多くの国の先生や学生さんが参加しており、大変賑わっておりました。UCLAの歯科麻酔学教授であるスティーブン・ガンツバーグ教授や日本の他大学の教授ともお話しする機会があり、大変勉強になりました。私自身は2回目のIADRの発表になります。顎骨内における局所麻酔添加アドレナリンの血管収縮の効果というタイトルで発表いたしました。この経験を活かし、奥羽大学での研究に生かしたいと思えます。

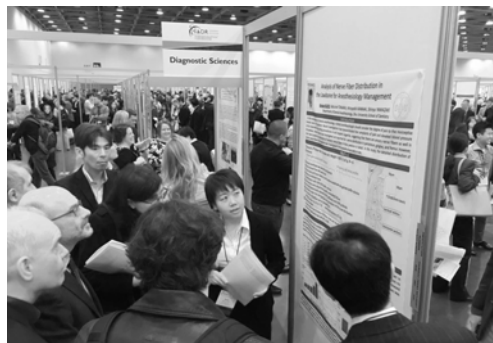
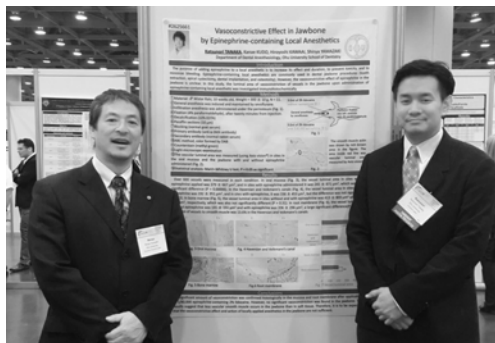
(大学院歯学研究科口腔機能学生体管理学分野 専攻 田中克典)

IADR2017にて発表するため3月22日(木)から3月26日(日)までサンフランシスコへ行って参りました。

山崎教授を始め、川合先生、田中先生にご指導いただき準備をし、「麻酔管理のための顎骨内の神経分布」というタイトルで初めの国際学会で発表しました。様々な国の方から自分の研究を見ていただき、私も拙い英語ではありますが質疑応答を行いました。色んな場所で活発な議論がなされており、活気に満ちておりました。

歯科麻酔学以外にも多くの研究を見ることができ、非常に貴重な経験をできました。この経験を糧にこれからも研究に邁進していきたいと思えます。

(大学院歯学研究科口腔機能学生体管理学分野 専攻 工藤香菜恵)



平成29年度科学研究費助成事業

継続

研究科目	研究代表代表者			研究課題名
	所属	職名	氏名	
基盤研究C	歯学部	教授	鈴木 恵子	イメージング技術を駆使した炎症性骨破壊と修復過程の評価-治療薬開発を目指して-
		教授	加藤 靖正	酸性細胞外pHによる糖代謝リプログラミングについて-特に癌幹細胞維持に関連して-
		教授	馬場 優	口腔癌に対するEGFR阻害剤の効果予測因子を探る
		准教授	前田 豊信	糖代謝産物が歯周組織に及ぼす影響の解析と新規歯周組織再生誘導材の開発
		講師	小林 美智代	骨代謝因子OPG/RANKLが明示する血管内皮細胞の新しい炎症制御機構
若手研究B	薬学部	講師	熊本 隆之	X染色体不活性化を中心とした妊娠環境の後天的影響と防御策の実験的検証
		助教	大原 宏司	尋常性乾癬における細胞外ATPの機能解析
合 計	7件			

新規

研究科目	研究代表代表者			研究課題名
	所属	職名	氏名	
基盤研究C	歯学部	教授	清浦 有祐	高齢癌患者の免疫チェックポイント阻害剤使用時のカンジタ症発現機序と予防法の確立
		講師	鈴木 厚子	SPARC(オステオネクチン)と悪性腫瘍の再発との関係
若手研究B	薬学部	助教	横田 理	雄性生殖系列を介して孫世代の脳機能障害を誘発する超微小粒子胎仔期曝露のインパクト
合 計	3件			

学校法人晴川学舎 平成28年度決算報告

1. 資金収支計算書

(単位:円)

科 目		予 算	決 算	差 異	
収入の部	学生生徒等納付金収入	2,269,775,000	2,030,677,600		239,097,400
	補助金収入	309,443,000	440,337,000	△	130,894,000
	その他の収入	1,841,728,000	1,543,625,647		298,102,353
	前年度繰越支払資金	514,802,043	1,300,923,007		
	収入の部合計	4,935,748,043	5,315,563,254	△	379,815,211
支出の部	人件費支出	2,386,182,000	2,136,914,073		249,267,927
	教育研究経費支出	1,216,050,000	1,012,403,262		203,646,738
	その他の支出	716,122,000	501,994,281		214,127,719
	翌年度繰越支払資金	617,394,043	1,664,251,638	△	1,046,857,595
	支出の部合計	4,935,748,043	5,315,563,254	△	379,815,211

2. 事業活動収支計算書

(単位:円)

科 目		予 算	決 算	差 異	
教育活動収支	事業活動収入の部				
	学生生徒等納付金	2,269,775,000	2,030,677,600		239,097,400
	補助金	309,443,000	440,337,000	△	130,894,000
	その他の収入	684,276,000	752,456,963	△	68,180,963
	教育活動収入計	3,263,494,000	3,223,471,563		40,022,437
	事業活動支出の部				
	人件費	2,449,153,000	2,142,619,478		306,533,522
	教育研究経費	1,772,071,000	1,520,761,645		251,309,355
	その他の支出	384,212,332	361,129,167		23,083,165
	教育活動支出計	4,605,436,332	4,024,510,290		580,926,042
教育活動外収支	教育活動収支差額	△ 1,341,942,332	△ 801,038,727	△	540,903,605
	事業活動収入の部				
	受取利息・配当金、その他収入	78,910,000	60,143,310		18,766,690
	教育活動外収入計	78,910,000	60,143,310		18,766,690
	事業活動支出の部				
	借入金等利息、その他支出	0	0		0
	教育活動外支出計	0	0		0
	教育活動外収支差額	78,910,000	60,143,310		18,766,690
	経常収支差額	△ 1,263,032,332	△ 740,895,417	△	522,136,915
特別収支	事業活動収入の部				
	資産売却差額、その他収入	0	1,722,089	△	1,722,089
	特別収入計	0	1,722,089	△	1,722,089
	事業活動支出の部				
	資産処分差額、その他支出	122,851	122,851		0
	特別支出計	122,851	122,851		0
特別収支差額		△ 122,851	1,599,238	△	1,722,089
〔 予 備 費 〕		(3,158,183)			46,841,817
基本金組入前当年度収支差額		△ 1,309,997,000	△ 739,296,179	△	570,700,821

3. 貸借対照表

(単位:円)

科 目		本年度末	前年度末	増 減
資産の部	固定資産	31,516,715,934	31,934,993,818	△ 418,277,884
	有形固定資産	10,203,726,416	10,689,647,545	△ 485,921,129
	土地	1,687,228,194	1,687,228,194	0
	建物	5,466,555,015	5,774,697,576	△ 308,142,561
	教育研究用備品・図書他	3,049,943,207	3,227,721,775	△ 177,778,568
	特定資産	21,300,000,002	21,233,444,851	66,555,151
	減価償却引当特定資産	11,720,672,979	11,720,422,979	250,000
	施設設備引当特定資産他	9,579,327,023	9,513,021,872	66,305,151
	その他の固定資産	12,989,516	11,901,422	1,088,094
	流動資産	3,643,995,511	3,929,975,476	△ 285,979,965
	現金預金	1,664,251,638	1,300,923,007	363,328,631
	未収入金他	1,979,743,873	2,629,052,469	△ 649,308,596
	資産の部合計	35,160,711,445	35,864,969,294	△ 704,257,849
負債の部	固定負債	1,124,740,450	1,133,556,277	△ 8,815,827
	長期未払金	5,897,342	20,418,574	△ 14,521,232
	退職給与引当金	1,118,843,108	1,113,137,703	5,705,405
	流動負債	506,244,692	462,390,535	43,854,157
	未払金	143,178,448	118,218,369	24,960,079
	前受金他	363,066,244	344,172,166	18,894,078
純資産の部	負債の部合計	1,630,985,142	1,595,946,812	35,038,330
	基本金	31,345,103,978	31,466,420,594	△ 121,316,616
	繰越収支差額	2,184,622,325	2,802,601,888	△ 617,979,563
	純資産の部合計	33,529,726,303	34,269,022,482	△ 739,296,179
	負債及び純資産の部合計	35,160,711,445	35,864,969,294	△ 704,257,849

スポーツ
学友会

学長杯球技大会

5月27日(土)、学友会主催による第23回奥羽大学学長杯球技大会が本学体育館で開催された。

今年度の種目はバレーボールとドッジボールの2種目。両種目とも白熱した試合が行われた。多くの団体・学生が参加し、非常に活気にあふれた大会となった。

学部や学年の垣根を越えてコミュニケーションがとられ、良い雰囲気の中大会を終了することができた。

仙台国際ハーフマラソンに
ライフサポート部が参加

ライフサポート部は、救急蘇生の普及／補助／研鑽を主とした活動を行うクラブで、医療系大学に特化した部活動だ。

ライフサポート部は5月14日(日)に行われた第27回仙台国際ハーフマラソンに救護班としてボランティア参加した。あいにくの雨で肌寒い天気であったが、天気が良い日に比べて、脱水や熱中症で倒れるランナーは少なかった反面、救護にとっては雨と寒さで大変な一日であった。





教育の第一歩は挨拶から

奥羽大学長 清野和夫

「君はこれから新しい職場に移るので、挨拶の仕方を教えてあげる」といって、上半身が直角になるくらい深々と頭を下げてお辞儀をし、しばらくした後にゆっくりと上体を起こされた。「一日は挨拶で始まり、挨拶で終わる。初対面の方にも、毎日顔を合わせている方にも同じ様な気持ちで挨拶をするものだ」と、特別に教えを受けた。今から25年も前のことである。それまで、挨拶といえば「挨拶のできない者にしっかりした仕事はできない」といったコマーシャルが地方のテレビ局で流れていて、研究室でも挨拶の重要性は指導されてきた。しかし、実際には、上司や先輩・後輩そして仲間どうしで「おはようございます」、「お疲れさまでした」などの言葉で交わす程度でしかなかった。それが、上体を腰のところで直角に折り曲げ、ちょうどカギ括弧のようになるまで深々と頭を下げて挨拶をするようにとの教えを受けたときには、にわかに実行し難いものを感じた。退職までの光陰が矢のごとく過ぎ去った。短期間のうちに送別会が頻繁に催された。お招きをいただくたびに挨拶することの意味が段々と分かってきた。最後の送別会は講座あげての大々的なものであった。壇上でお別れの挨拶をしながら、いつの間にか深々と頭を下げていた。

それから、新入教室員に挨拶を教えるため、尾瀬に1泊旅行をするのが毎年の行事となった。尾瀬には当時で年間約50万人が訪れていた。登山では見知らぬ人の間でも声を掛け合って挨拶する。そのため、一日にすれ違う千人を超える人々に声を掛けることになる。この行動を2日間続けさせる。そうすると、今までは声を掛けても頭をチョコンと傾げるだけで声を出さなかった教室員も、大学に戻ってきた時には教室員同士は勿論、職員にでも学生にでも、誰にでも明るく大きな声で挨拶するようになった。挨拶ができるようになると行動が生き生きとして、仕事や勉学に励む姿勢を見せてくれる。

最近では挨拶をしない学生が目につくようになったという話を聞く。また、学生が歯科医師になったとたんに挨拶されなくなったと嘆く同僚もいた。学生や新入教室員にとってみれば、関係が薄れた人に対して挨拶する習慣がないのであろうし、その必要性も感じていないのであろう。そんな学生や新入教室員でも、こちらから先に挨拶をすれば、殆どの学生、教職員は声を出して応えてくれる。そのうちに向こうから声を掛けてきてくれるようになる。それが習慣付けられれば同僚の嘆きは消えるはずである。教育の第一歩は挨拶からということであろうか。

自著を語る

『小児歯科学ベーシックテキスト』『小児歯科学クリニカルテキスト』

新谷誠康、島村和宏 ほか編著 永末書店 2016.1

本書は、小児歯科学の基本的知識を身につけ理解するベーシックテキストと、代表的な症例を経過や手順に沿って開始から終了まで理解していく、症例集形式のクリニカルテキストの2冊で構成されている。写真や図表を多用して、基礎的事項と臨床とのつながりや臨床経過のポイントをわかりやすく解説している。分担箇所は「外科的処置」「顎骨と口腔軟組織の疾患」で、ベーシックテキストの第14章と第15章、クリニカルテキストの第3章と第4章である。コアカリキュラムや歯科医師国家試験に準拠していることはもちろんだが、臨床手技の写真提示も豊富なため、研修歯科医師や一般歯科医師が小児歯科診療を確認するためにも活用してほしい2冊である。

(歯学部成長発育歯学講座 小児歯科学分野 教授 島村和宏)



新任教授紹介



薬学部 疾患薬理学

教授 佐藤 研

本年4月1日付で薬学部教授ならびに歯学部附属病院呼吸器内科診療科長を拝命した佐藤です。私は東北大学医学部、同大学院を経て、米国国立衛生研究所、東北大学加齢医学研究所などで呼吸器疾患の臨床と研究に従事してきました。東北大学では助教授として、本邦初となる肺がんp53遺伝子治療の実施に関わりました。その後はJR仙台病院、東北労災病院などで呼吸器内科医として診療に携わり、現在に至っております。

実臨床では呼吸器疾患全般が対象でしたが、とりわけ呼吸器感染症や肺がんの治療に当たっては、「抗菌化学療法認定薬剤師」や「がん薬物療法認定薬剤師」など専門知識を持つ薬剤師とのチーム医療が欠かせませんでした。また、院内感染対策や環境管理でも薬剤師の果たす役割は極めて重要でした。私が得てまいりました臨床経験が、これから薬剤師をめざそうとする学生の教育に役立つよう、精一杯努めていく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



薬学部 医療薬学分野

教授 中川 直人

平成29年4月1日付で、薬学部医療薬学分野教授を拝命いたしました。昨年度までは東北大学病院薬剤部で、薬剤師として主に医薬品情報業務に従事していました。大学病院薬剤部、保険調剤薬局、米国Pharm.Dプログラム留学などの経験を基に、学生教育に生かしていきたいと考えています。日本の薬学教育と米国のそれとでは様々なところに違いがみられます。例えば、薬物治療学に充てる時間の違い、文献評価学という教科の有無、実務実習の期間の違い・自由度の違い・考え方の違いなどがあります。中でも文献評価に関しては薬剤師のスキルとして必要と考え、大学病院薬剤部に在籍中は、「ジャーナルクラブ」という臨床試験論文を批判的に読む勉強会を立ち上げて職員教育をしました。今では、宮城県病院薬剤師会として「県病薬ジャーナルクラブ」を開催し、臨床試験論文を批判的に読める薬剤師を育てています。本学の学生教育をはじめ、地域の薬剤師も視野にいれた活動ができればと考えています。

同窓会だより

創立30周年を祝う

江良 謙次(山形県支部長 歯学部4期生)

皆様お元気ですか。

山形は先週まで、朝夕8度前後で寒く、日中は18度くらいの気温でした。しかし、先週末から全国的に気温の上昇もあり、木々の緑の濃くなってきたのが日に日に目立つようになってきました。山形市から見える山々には7月くらいまで残雪が光って見え、南西方向に遠く飯豊連峰が、西には朝日連峰、西北西に月山が連なっております。南東方向には蔵王連峰がそびえており、さながら東北のアルプスの感があります。山好きの方どうぞ来てください。

さて、山形県支部の動向をご報告いたします。本年4月現在、卒業生1期生から40期生までの会員数は推定50名で、山形県歯科医師会の会員名簿に掲載されている本学出身者数は41名おります。特に36期生以降の行方はなかなかつかみにくい状況であり、まだまだ都会志向が強いのか山形に戻ってこられる先生は少ないのではないかと心配しております。本県では県歯科医師会に入会の際に同窓会への入会を勧めており、積極的に同窓会への参加を呼び掛けております。

支部の活動は5月に総会、9月にサマーセミナーを、11月下旬～12月上旬に忘年会を企画しております。ここ数年出席者はほぼ決まっているため、総会や忘年会の際には本学の臨床、基礎を問わず教授をお招きして、少しでも興味のあるお話を伺おうと企画しております。昨年は忘年会に赤湯出身の新しく本学生理学教授に就任した川合先生と、福島県同窓会支部長である古田先生をお呼びして、川合先生からは各種全身疾患を有する患者さんへの局所麻酔時の注意事項について、古田先生からは福島県の震災後の同窓会員の動向などのお話を聞きました。今後は山形県との隣接近県の支部との交流を図っていききたいと考えているところです。

追伸 山形県出身でご両親が山形近隣に住まわれていてまだご健在であり、しかし先生は既に山形県外で開業されている方がもしもいらっしゃるならば、帰省された際には是非お声をおかけください。よろしくお願いします。

同窓生のひろば



野中 修一(歯学部2期生)

同窓生の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

私事ですが、数年前より休日の木曜日には伊豆半島、富士山

周辺、浜名湖など県内の各観光地に出かけるようになりました。最近では伊豆に行くことが多く、この地をより知るところとなりました。伊豆半島はかつて南洋にあった海底火山や火山島がフィリピン海プレートと伴に北上し本州との衝突により誕生し、その後も火山活動や地殻変動が続き変化に富んだ地形と豊かな温泉を有する半島が作られました。

伊豆の魅力は新鮮で豊富な魚介類と海岸線からの景色が挙げられます。東伊豆では相模湾と三浦半島とその後方に房総半島が、さらに南には水平線に浮かぶ伊豆七島(東京都)の景観が楽しめます。西伊豆では駿河湾越しの富士山、海に沈む夕日などが絶景です。一方中伊豆は修善寺に代表されるように山峡での癒しには最適と思われます。

これら伊豆へのアクセスは新幹線で熱海へそこから下田鉄道にて東伊豆へ、三島から伊豆箱根鉄道にて中伊豆へ、西伊豆は清水港から土肥へと便利になっています。

さて本業についてですが、大学を卒業し39年間治療に従事し、新製品の出現や保険診療の変化などには随時対応してきたと思います。しかし、問診により知り得た様々な疾病の概要や歯科治療の進歩に対しては歯科医師会主催の講演を数多く受講し、さらに専門書を購読しましたが把握することはかなり大変でした。今では大学生のうちに習得すべきこととはいえ広範な分野と深く追及された専門的な知識には驚愕しました。

現在63才を迎えこれからさらに10年以上現役続行を目指しています。そのためにも健康な身体の維持と新しい知識をより積極的に吸収していかなければならないと思っています。



浅倉 聖岳(薬学部2期生)

同窓生の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

薬学部2期生の浅倉聖岳と申します。つい先日、私は人生に

おいて初めて骨折を致しました。

ある日の事でございます。私は職場からの帰路を、独りで颯爽と自転車で走っていました。新緑の季節で木々は青々とし何とも言えない好い匂いが、絶間なくあたりへ溢れて居ります。そんな中、自転車の前輪に何かが引っ掛かり衝撃を感じたと同時に転倒、胸部を強く打ちました。その時既に痛みを感じていたものの、骨折などしたことない私は打撲だろうとおもい通常の日常生活を送っておりました。しかし妙なことに咳をすると胸が痛い、腕に力を入れると胸が痛い、くしゃみをするとき体の中に「ばきばき」と音が響き渡り激痛に襲われるのです。これが「閑さや 身体にしみ入る 骨の声」と思い、異常を感じた私は、病院で検査をしてまいりました。結果は第4肋骨骨折。人生初めての骨折です。著しいQOLの低下を体験しました。

昨今医療関連の学会、薬剤師の学会などでは「QOLの向上」に関する発表を度々見るようになりました。昨年4月には「かかりつけ薬剤師」が施行され、10月には薬局を地域に密着した健康情報の拠点として、一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を行う等、セルフメディケーションの推進のために薬局・薬剤師の活用を促進する「健康サポート薬局」が開始されました。この様に薬剤師の職能を発揮し国民のQOLの向上、医療費削減のための環境は整備されてきています。今回の骨折体験により国民のQOLの向上のために薬剤師の職能を釈迦力に国民に還元したいと思いました。

新緑の季節で木々は青々とし何とも言えない好い匂いが、絶間なくあたりへ溢れて居ります。福島ももう昼近くになったのでございましょう。母校奥羽大学のさらなる発展と、皆様のご健康を心よりご祈念申し上げます。

人 事

<指定職選任>

衛 藤 雅 昭	薬 学 部 長	4月1日付
安 藤 勝 孝	図 書 館 長	〃
早 坂 正 孝	薬学部学生部長	〃

<昇任>

富 田 修	新 講 師	旧 助 教 院	4月1日付
小 嶋 忠 之	講 師	助 教 院	〃
芹 川 雅 光	講 師	助 教 院	〃
池 田 敏 和	講 師	助 教 院	〃
今 井 彩 乃	〃	〃	〃
小 汲 大 二 郎	〃	〃	〃
金 子 良 平	〃	〃	〃
木 村 楽	〃	〃	〃
鈴 木 幹 子	〃	〃	〃
中 島 朋 美	〃	〃	〃
盛 植 泰 輔	〃	〃	〃
山 家 尚 仁	〃	〃	〃
大 木 達 也	助 生 体 材 料 学	助 生 体 材 料 学	〃
齋 藤 龍 一	〃	〃	〃

<任用>

本 多 真 史	講 師	日 本 語 学	4月1日付
双 石 博 之	助 手	成 長 発 育 歯 学	〃
佐 藤 知 哉	助 手	生 体 構 造 学	〃
伊 藤 廣 美	助 手	附 属 病 院	〃
内 山 林 夏 彦	〃	〃	〃
北 井 治 悠	〃	〃	〃
酒 井 藤 光 子	〃	〃	〃
佐 渡 由 研	〃	〃	〃
佐 藤 研 人	教 授	薬 学 部	〃
中 川 直 人	〃	〃	〃

高 橋 慶 壮	新 教 授	旧 教 授	4月1日付
大 野 敬	教 授	教 授	〃
高 田 訓	〃	〃	〃
山 崎 信 也	〃	〃	〃
福 井 和 徳	教 授	教 授	〃
清 浦 有 祐	教 授	教 授	〃
廣 瀬 公 治	教 授	教 授	〃
杉 田 俊 博	教 授	教 授	〃
菊 井 徹 哉	教 授	教 授	〃
佐 々 木 重 夫	〃	〃	〃
金 秀 樹	准 教 授	准 教 授	〃

中 川 敏 浩	准 教 授	准 教 授	4月1日付
車 田 文 雄	准 教 授	准 教 授	〃
清 野 晃 孝	准 教 授	准 教 授	〃
川 原 一 郎	附 属 病 院	附 属 病 院	〃
佐 藤 直 生	講 師	講 師	〃
茂 呂 祐 利 子	講 師	講 師	〃
遊 佐 淳 子	講 師	講 師	〃
櫻 井 裕 子	〃	〃	〃
長 岡 正 博	〃	〃	〃
大 須 賀 謙 二	講 師	講 師	〃
古 山 昭	〃	〃	〃
阿 部 匡 聡	講 師	講 師	〃
大 橋 明 石	講 師	講 師	〃
伊 藤 悠	附 属 病 院	附 属 病 院	〃
宗 像 佑 弥	〃	〃	〃
白 田 真 浩	〃	〃	〃
成 田 知 史	〃	〃	〃
保 田 穰	〃	〃	〃

<再任用>

齊 藤 博	准 教 授	生 体 構 造 学	4月1日付
青 木 潔	准 教 授	生 体 材 料 学	〃
秋 山 哲 夫	〃	〃	〃
衛 藤 雅 昭	教 授	薬 学 部	〃
竹 元 万 壽 美	〃	〃	5月7日付

<昇格>

鈴 木 雄 太	新 主 任	旧 事 務 職 員	4月1日付
原 田 直 明	主 任	事 務 職 員	〃

<採用>

阿 部 麗 奈	歯 科 衛 生 士	病 院 医 療 部	4月1日付
幸 田 真 美	〃	〃	〃
添 田 美 咲	〃	〃	〃

<再雇用>

田 卷 勝 幸	警 備 職 員	総 務 部	4月1日付
榊 原 直 文	事 務 職 員	薬 学 部 学 事 部	〃
遠 藤 進	事 務 職 員	病 院 事 務 部	〃

<異動>

高 橋 昌 宏	新 講 師	旧 講 師	4月1日付
吉 田 貴 弘	係 長	係 長	6月5日付

<定年>

竹 元 万 壽 美	教 授	薬 学 部	5月6日付
-----------	-----	-------	-------

<退職>

山 赤 城 千 佳	技 術 職 員	総 務 部	4月30日付
	教 助	附 属 病 院	6月30日付

平成29(2017)年度 夏のオープンキャンパス実施日程

OPEN CAMPUS 2017 SUMMER

夏のオープンキャンパス2017

7/15^土 10:00~13:00

10:00~(5分)	オリエンテーション
10:05~(25分)	学部紹介・入試説明
10:30~(30分)	ミニ講義
会場: 本学	11:00~(10分) 休憩
11:10~(30分)	キャンパス見学
(30分)	実習体験
12:10~(50分)	個別相談・学食体験

8/2^水・3^木 12:00~16:00
(両日とも)

12:00~(60分)	学食体験
13:00~(5分)	オリエンテーション
13:05~(25分)	学部紹介・入試説明
13:30~(30分)	ミニ講義
会場: 本学	14:00~(10分) 休憩
14:10~(30分)	キャンパス見学
(30分)	実習体験
15:10~(50分)	個別相談

■事前予約要 ■入試説明あり ■JR郡山駅からの送迎あり ■お問い合わせ: 奥羽大学 企画・広報課 TEL024-932-9055
■全日程保護者同伴可(保護者のみの参加も可能です)

個別見学者 随時受付中

オープンキャンパス開催日以外で、個別で大学を見学に来られる方を歓迎します。

日 時/月曜日~金曜日の9:00~17:00の間
(随時受け入れ/土日・祝祭日を除く)

対 象/どなたでも可

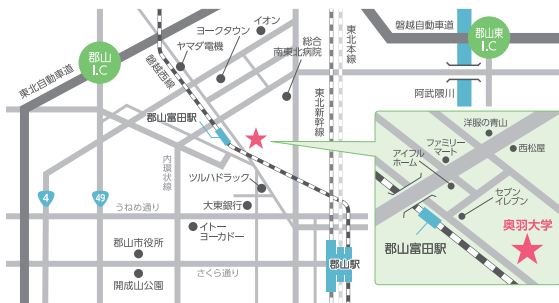
申込み/事前に企画・広報課までご連絡ください
TEL: 024-932-9055
E-mail: info@ohu-u.ac.jp入試の疑問
大学生活の不安
まとめて解消国家資格は?
奨学金は? etc.
知りたいことに
お応えします保護者のみの
個別見学・相談も
受付しております

個別見学のメリット

- 専門スタッフが参加者の希望に合った見学プログラムをコーディネートします
- 平常授業日の場合は、希望の講義・実験・実習を好きなだけ聴講できます
- 在学生と昼食懇談ができます
- 保護者、友人、知人同伴参加はもちろん可能です
- その他、事前予約でスタッフが相談に応じます

見学プログラム事例

- 月○日
- 10:00 母親と2人で来学
 - 10:10 個別進学相談
(入試情報・教育内容など)
 - 10:30 薬学部授業見学
「疾患薬理学」(3年次) 講義聴講
「薬理学実習」(3年次) 実習見学
 - 11:30 施設見学
 - 11:50 学食体験・薬学部学生との懇談
 - 12:40 進学相談(学校生活・奨学金など)



Innovative Future

奥羽大学



TEL 024-932-9055

奥羽大学 検索
www.ohu-u.ac.jp

(お問い合わせ先: 企画・広報課) 〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1 TEL: 024-933-7372 E-mail: info@ohu-u.ac.jp

奥羽大学へのアクセス

福島交通バス
JR郡山駅より約10分JR磐越西線 郡山富田駅
西口より徒歩3分(平成29年春新設)お車でお越しの方
●郡山ICより約15分
●郡山東ICより約15分

新幹線利用

・盛岡ー83分
(仙台駅乗換え時間を含む)
・山形ー81分
・仙台ー35分
・宇都宮ー27分
・大宮ー51分
・東京ー77分

飛行機利用

・札幌ー80分
・大阪ー65分

奥羽大学報154号(通算No.279)平成29年6月30日発行

発行

奥羽大学

学報編集委員会

委員長 清野和夫

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1

電話 024 (932) 8931(代) FAX 024 (933) 7372

ホームページアドレス http://www.ohu-u.ac.jp

メールアドレス info@ohu-u.ac.jp

※「奥羽大学報」送付先変更の方は、FAXまたはメールでご一報をお願いします。